多文化共生

体験塾 in 滋賀 実施報告
～人の多様性から外国人との共生を考える～

（一財）自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課

体験塾について

「体験塾」とは、多文化共生の先進地を訪問し、自治体や地域国際化協会、NPO などの取り組み事例を学ぶ体験型の研修で、参加者の施策立案スキルの向上や参加者間のネットワーク構築を目的としています。今年は「外国ルーツの人々とともに魅力ある地域づくり・人づくりへの道」をテーマに、6月13日から2日間にわたって滋賀県の先進事例を学びました。

1日目：大津市で朝鮮を学ぶ

■オリエンテーション

1日目は、大津市でオリエンテーションから始まりました。自己紹介ワークでは、多文化共生に関する質問が書かれた3×3マスのビンゴシートを使い、参加者同士が質問し合ってマスを埋めました。この活動を通じて、参加者は緊張をほぐしました。

続いて、研修のファシリテーターである、（公財）滋賀県国際協会の大森氏から、滋賀県の在住外国人の現状や多文化共生施策についてご講義いただきました。

■滋賀朝鮮初級学校

滋賀県に住む在日朝鮮人の子どもたちの学び舎として1960年に設立された滋賀朝鮮初級学校には現在十数人の生徒が通っています。ここでは、子どもたちの授業風景を見学したほか、講師の鄭先生から学校設立に至る経緯や外国人学校を取り巻く状況、課題などについてお話しいただきました。「次世代のために私たちの身の周りから共生の道を」という先生の言葉に参加者は大きくうなずきました。

■渡来人歴史館

この歴史館では「渡来人」をキーワードに、古代から近現代に至るまでの日本と東アジアとの歴史的なつながりを学ぶことができます。参加者は、渡来人が古代日本の文化形成に大きく寄与したことや、日本と東アジアとの関係が過去から現在に至るまで大きく変化してきたことなどを、最新の研究を通じて学びました。

■ワークショップ＆ふりかえり

外国人の立場を理解するため、言語を理解できない場所で被災したことを想定したワークショップを体験しました。参加者はワークショップを通じて、言語を理解できないことから生じる不安感をはじめ、ピクトグラムや多言語表示の活用など、情報が「伝わる」ための工夫の重要性に気づくことができました。

ふりかえりセッションでは、視察や講義で学んだことについてグループで振り返り、ディスカッションを行いました。「次世代を担う子どもたちのために自分たちは何ができるだろう」という参加者の声が印象的でした。

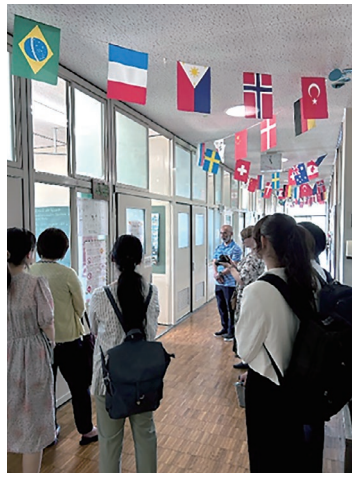
2日目：東近江市でブラジルを学ぶ

2日目は東近江市で研修を実施しました。

1日目の様子

■日本ラチーノ学院

日本ラチーノ学院には、１歳から高校３年生まで約200人の生徒が通っており、そのほとんどがブラジルにルーツを持つ子どもたちです。ここでは、子どもたちの授業風景を見学したほか、校長のカイオ先生から設立の経緯や現状、課題などについての話を伺いました。「海外で起こっている戦争だけではなく、身近にいる外国人の子どもたちにも目を向けてほしい」という先生の言葉に参加者は深く考えを巡らせていました。


授業を見学する参加者

■滋賀県国際協会

ファシリテーターの大森氏から、滋賀県国際協会の取り組みについて話を伺いました。滋賀県国際協会では、外国にルーツを持つ高校生などを対象とした進路フェアや地域の小学生などを対象とした出前授業、次世代育成セミナーなど、多文化共生に関する事業を多く展開しています。「外国人は地域のポテンシャルである」という言葉に参加者は深い感銘を受けていました。

■移民支援団体 immi lab

「移民の声が消されない社会」を目指す移民支援団体immi lab（イミラボ）は、移民ルーツを持つ若者のメンタープログラムやコミュニティ運営などを行っています。代表の北川氏の「このプロジェクトは支援ではなく伴走。若者の１歩目をともに踏み出し、自走できる力をつけてもらいたい」という話が印象的でした。

■ふりかえりセッション

２日間を通して学んだことや感じたことを振り返り、それらを自分たちの地域の活動にどうつなげるかを考え、参加者同士でディスカッションやフィードバックをしました。具体的なアイデアとして、夜間に行う外国人向けキャリアカウンセリングや外国人と日本人をマッチングして行うメンター制度、外国人生徒を対象とした進路指導や親世代への説明会、外国人住民のロールモデルの掘り起こし（インタビュー）、県民向けの多文化共生理解講座などが挙げられました。

おわりに

今回の体験塾では、さまざまな団体の活動を学び、実際に現場を訪れることで、データとしての理解を超えた実感を得ることができました。

現在、国では、技能実習制度に代わる新制度「育成就労制度」の新設などを柱とする改正出入国管理法が可決・成立し、今後、外国人労働者の受け入れの加速が見込まれるなか、外国人が地域社会で共にいきいきと暮らし働くことができるまちづくりは、行政にとって喫緊の課題です。

参加者からは、「研修での経験を生かし、自分の自治体でどう反映できるのかを考えていきたい」「今回体験したこと、学んだことをしっかり受け止めて、この課題について考え続けていこうと思った」「この研修で良い仲間ができた」など前向きな感想をたくさんいただきました。

クレア多文化共生部では、体験塾をはじめ、地域の多文化共生に資する取り組みを今後も進めてまいります。

immi lab による講義

参加者の皆様ありがとうございました